



# 会報

第23号

平成5年9月

社団  
法人 北海道美術館協力会  
札幌市中央区北1条西17丁目 電話011-644-4025



## 北海道立近代美術館蔵 ブリジット・ライリー「アレスト I」

1965年 アクリリック・キャンバス 178.0×174.5cm

ゆるやかな曲線を描く色の帯が画面をおおっている。それら一本一本は、幅やカーブの具合をわずかに変えただけで、実にシンプルなものであるが、組み合わせられた時、色と形が響きあって、画面にゆたかな動きを生みだす。波打ち、たゆたうような空間が現れるのである。

作者のブリジット・ライリーは、現代イギリスの女流画家で、視覚的効果を巧みに用いた表現で知られる。その作品は、幾何学形態を反復させるというような、一見無機的な表現によりながら、叙情感や爽快感などを強く感じさせるものが多い。

# 住民のニーズに応え 変わろうとする美術講座

当会創立以来16回続いてきた歴史ある「婦人美術講座」が、地域住民のニーズに応えていま変わろうとしています。

みなさんご承知の「ボランティア養成のための婦人美術講座」は本年4月14日から10月14日までの予定で現在第16回目の講座を開催中です。

すでに前回も本紙上をもって、この応募者が例年200人から300人に及んでいること。そのなかから受講できるのは50人であること。婦人に限られてきたことなどお知らせし、現在当会の大きな課題であることを記してきました。

そして、この課題解決にはいくつかの問題点をクリアしなければならない現状についてもお伝えしたところです。

理事会では、これらの現状をとらえ、「住民のニーズに応えよ」という結論が出され、その検討が事務当局におろされました。

事務当局としては、早速年度はじめに理事をもって構成する事業部会にボランティア部員を含めた「美術講座検討委員会」を、総務部会には「組織改正検討委員会」を設置して両者並行しながら検討を開始しました。

その成果が近く中間報告の形で出されようとしています。

## ●講座受講枠の拡大

ここ数年、応募者の5分の1、6分の1しか受講できなかった人数制限を200人程度に拡大したい考えです。対象も婦人に限らず男性も加えることとしています。

さらに応募者が上回る場合は、これは止むをえません。抽選ということになります。

問題になるのは場所の確保ですが、原則的には近代美術館の講堂を利用させてもらうことで解決を図りたいと考えています。これは、受講者のみなさんに机用のものがない。採光の不足など不便な点はご容赦願わなければなりません。

また、講座の回数についてはボランティア活動をするうえでの美術の一般的基礎知識ということで従来までの回数にこだわらず、この講座後に行われる部門別養成研修とのかかわりも考慮しながら流動的に考えることとしています。

受講枠の拡大、男性への門戸解放、ボランティア活動分野の拡大などの実現のため、問題点解決に明るい見通しが出てきました。

なお、これらの講師陣や施設利用では近代美術館の協力が欠かせない要件になってきます。

## ●ボランティア活動員

ボランティア活動の領域は現在、基本的には売店・解説・資料の3部門を包括しボランティア部としておりますが、これを解散して3部制にし、さらに現在、その大半を事務局が処理している事業・広報・研修といった部門を加え活動領域を広げようとしています。これによって、活動の領域は拡大されるのですが無限に人数拡大を図るわけにもいきませんので、各部定数が設定されることになります。今回は、あくまでも現状の業務を基本として移行しようとしていますので、今後移行後の活動が定着し、さらに業務拡大を図る段階では定数も大きく変化していくでしょう。

その定数内で実際にボランティア活動をするメンバーを活動員としますが、美術講座を8割以上受講し、さらに養成研修を修了した人がこの任に当ることになります。ここに加われなかった人たちについては別途検討を重ねています。

## ●要求される資質

ボランティアの活動希望者は、全員参加させるべきではないのかという意見もあります。そういう形で活動できるボランティアグループもあるかもしれません。しかし、当会のような目的を明定され組織的活動を基本とするボランティアの場合は、目的に沿う資質が要求されますし組織員として約束ごとを守れる人でなければなりません。

それらのことが共通に理解され実行されなければ、活動メンバーに迷惑をかけることになりますし、全体の運営にも支障を来すことになります。

この資質の確保は入口の問題だけではなく、すでに活動をしているボランティアにも要求されることで、不断的研修が不可欠な事項となっております。

以上、美術講座とそれに付帯する事項について現在検討中の概要をお知らせしました。

# 美術館はみなさんのもの

沢山の方々のご来館をお待ちしております。

バブルが崩壊して心のゆとりがなくなったということでしょうか。デパートなどで多彩な美術展が開催されているせいでしょうか。いま、全国的傾向として美術館の入館者は減少しているそうです。

このようななかで、できるだけ多くの方々にご来館いただこうと当会ではボランティア部員の協力をもらいながら美術館のPRに努めています。

本年は、特に団体・グループ等を対象にチラシの配布を行いました。

市役所の担当窓口をまわったり、連合PTAの事務局を訪問したり、ボランティア部員は本来の担当部門以外の活動として足で歩きました。

この活動は、それぞれ団体・グループの年間計画を検討する時期を逸しては効果が少ないのでないかという観点から、当会が独自に新年度の開催展などの情報をキャッチしチラシを作成して早期に配布をしたものです。

配布先は、PTA・女性学級・市民見学団体・家庭学級・各種グループなどが主なものです。市役所関係にもご協力をいただきました。

その効果は徐々に現れてきているようです。

北海道立近代美術館を10人以上の団体で観覧する場合は料金割引もありますし、展示作品などをよりよく理解してもらうため、解説ボランティア部員によるオリエンテーション（観覧される観覧会のスライドによる作品解説）も用意されております。

バス利用の場合は北側敷地内のバス専用駐車場を利用できます。

これらは予約制になっておりますので、1週間前くらいまでに美術館業務課に申し込んでください。

機会がありましたら、会員のみなさんからも団体・グループの方々にお誘いの言葉をかけてあげてください。

より多くのみなさんのご来館をお待ちしております。

## 新入会員の紹介（平成5年1月～6月）

ご入会ありがとうございました。

加藤良美 席延  
4月(個人会員)  
日本通運(株)札幌旅行支店  
(株)道新サービスセンター

1月(個人会員)	幌幌幌幌幌樽樽別幌	幌幌幌幌幌樽樽別幌	幌幌幌幌幌樽樽別幌		
小吉佐清近大深勝小	林川藤水藤塚山本畑	札札札札札小小江札	子子子子子枝子子	木井玲敬	札札札札札幌幌
				崇子子子子	

(個人会員)

3月(個人会員)  
佐藤順子  
秋山圭一  
能瀬千恵子  
池田百合子  
山本義徳  
山本義徳  
山本義徳  
山本義徳

6月（法人会員）  
 (財)札幌芸術の森

幌幌幌幌幌幌島幌幌幌広狩幌幌別幌  
札札札札札広札札札帶石札札江札札  
成薰子一夫子子子弘二子子子子乙  
茂優欽孝澄玲由正昇志佑ま師徒  
木田上田田村藤繁田川内山築地尾  
横井吉古木伊赤迫方中横都菊瀬漸  
個人会員) 哥牧幌広狩幌幌幌幌幌幌  
美智子子子進智助子子男子雄サ子子  
住平谷倉条野丸田塚川野西藤  
豊太森戸南平金金笹長中小佐

# 美術館ニュース.....

## 北海道立近代美術館

9月4日(土)～10月3日(日)、「東山魁夷－青の世界」展を開催します。現代日本画の巨匠・東山魁夷は、85歳の現在も日展を舞台に活躍しています。一貫して風景を描くこの画家は、鋭い画家の眼と繊細な詩人の心で、自然の語りかける密やかな言葉を注意深くとらえ、丹念に定着させていきます。その風景画には、私たちが心のふる里のように抱いている温雅で美しい自然のイメージが、平明に、しかも深い情感をたたえて表現されています。

こうした東山芸術の展開をたどると、それぞれの時期に青の諧調で統一された作品が多く描かれていることに気づきます。それは東山芸術の特徴のひとつともなっていますが、青の世界への憧憬は早い時期に現れており、昭和20年代初めの『残照』などには、人間を温かく包み込む優しい自然の姿が、清冽な青の空間に表されています。同じ傾向の作品は、以後も描かれ、さらに昭和40年代以降の青の作品や、『唐招提寺障壁画』に代表される水墨の作品では、精神性がいっそう強く表れています。

青は、常に精神的な深さを感じさせる色であり、古来瞑想や超俗、永遠を表すものでした。それゆえ精神により係わることになるのですが、東山魁夷にとって、青は感覚と精神を繋ぐ色であったと考えられます。

本展は、画家の内奥を表す青の作品によって、制作の精神的基盤を探り、さらにその芸術の精髄を明らかにしようとするものです。北海道では、初めての個展となりますが、精選された代表作66点を展覧する充実した内容となっています。

また、これくしょん・ぎゃらりいでは、10月3日(日)まで、「渡航者たちの眼－1920s～1940s 好奇と感動のカルトン」が開催されています。1920～1940年代にかけて、パリやニューヨークなど国際的な美術の中心地には世界各国から多くの美術家が集まり、異郷の地で競うように新しい表現の可能性を追求しました。一方、この時期には上海、満州などのアジア各地が、日本の美術家の新たな取材先として注目されるようになります。本展は、このように拡大された美術活動の場において、生み出されたユニークな表現の数々を紹介するものです。



東山魁夷  
「白馬の森」  
須田桑翠 黒柿小簞笥  
北海道立旭川美術館蔵

## 北海道立旭川美術館

平成5年度後半の展覧会から

道立旭川美術館では、今年も特別展、常設展で、バラエティーに富んだ展示を行っていく予定ですが、その中から10月～12月までの内容を紹介します。

10月9日(土)から11月14日(日)までは、「芸術のニッポン－北斎漫画と版画のジャポニズム」展を開催します。森羅万象を描こうとしたとされる葛飾北斎の「北斎漫画」が、西洋美術に与えた影響を紹介するもので、ロートレック、マネなどの版画やエミール・ガレのガラス工芸などを「北斎漫画」とともに展示、紹介いたします。「北斎漫画」の多彩な魅力を楽しむとともに、19世紀後期の西洋でどのように吸収されていったのかをよくうかがうことができる興味深い内容です。

11月20日(土)から12月19日(日)までは、「深井克美展－夭折の画家・その魂の軌跡」を開催いたします。深井克美(1948～1978)は、函館市に生まれ、自由美術協会を中心に制作活動を続けました。しかし、生来病弱で、カリエスなどの病に悩まされ、わずか30歳で自ら命を絶ちました。その作品は、彼の強烈な苦悩を語るように幻想的で、画家の魂の叫びともいいうべきものが聞こえてくるようです。本展では約60点の油彩、デッサンにより、その画業を紹介します。

昨年11月に増築された常設展示室では「木工芸の世界－伝統とユーモア」を10月9日(土)からは12月19日(日)まで開催いたします。旭川美術館では、木の造形作品を収集の一つの柱としていますが、その中から黒田辰秋、須田桑翠ら、すぐれた伝統木工芸作家の作品と、鹿目尚志、戸村浩、大門嚴ら、現代の木工クラフト作家たちのユーモアあふれる作品を紹介いたします。



# .....美術館ニュース

## 北海道立函館美術館



「双面の頭飾り型仮面」  
アフリカ彫刻展より

本年度後半の展覧会を紹介します。まず、8月末から開催されている「昭和の日本画展」(8月28日～9月26日)は、日本芸術院の所蔵品から43作家43点を紹介するものです。出品作家は、横山大観や結城素明から東山魁夷、高山辰雄など帝展や日展、創画会などを中心に活動してきた、あるいは現在活躍中の日本画家です。昭和期の日本画の歩みを、戦前、戦後、現代と比較しながらうかがうことができるでしょう。つづく「アフリカ彫刻展」(10月2日～11月6日)では、現代の美術にも大きな影響を与えたアフリカの芸術を紹介します。ヨーロッパ有数と評価されているイタリア人カルロ・モンズィーノのコレクションの中から、サハラ以南に住む多数の民族が生み出した、多彩な彫像や仮面、装身具や器など101点が出品されます。また、この時期には、当館協力により、檜山管内4町で移動美術展も開催されます。11月には、短期間ですが「手で見る美術展」(11月13日～11月21日)が開催されます。これは「国連・障害者の10年」記念文化事業実行委員会と北海道が主催するものです。ギャラリー・トム所蔵のロダンやピカソ、マイヨール、佐藤忠良などの彫刻、全国の盲学校の生徒作品、当館所蔵のブロンズ像など、約50点が出品されます。視覚に障害を持つ方々が、実際に手で触れて鑑賞できる絶好の機会となるでしょう。

つづく「ヨーロッパの現代版画展」(11月27日～12月22日)では、主として北海道立近代美術館の所蔵品から、ルネ・マグリット、サルバドール・ダリ、マックス・エルンストなどシュル・レアリスム系を中心に、約100点の作品により、20世紀におけるヨーロッパの版画の動向を展望します。年が明けてからは、貸館を一つはさみ、当館のコレクションを中心とした「道南の美術」(1月2日～3月27日)を開催します。函館は、北海道の中でもいち早く美術運動の拠点となった都市ですが、それは現在到るまで連綿と続いています。当館では毎年、この長い歴史を持つ函館を中心とした道南の美術を、各種テーマのもとに、様々な視点から紹介しています。

以上、展覧会を中心に紹介しましたが、この後半にも、講演会をはじめ、特別展セミナー、美術講座、美術映画会、ミュージアム・シアター、ミュージアム・コンサートなど、盛り沢山の普及事業が予定されています。

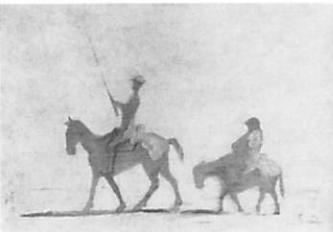
## 北海道立帯広美術館

平成5年度下半期に予定している展覧会事業を紹介します。

主展示室で行う特別展・企画展に関しては、9月18日から10月24日まで、帯広・大阪間航空路線開航一周年を記念して帯広市と共にドーミエの収集で知られる伊丹市立美術館の所蔵品により『オノレ・ドーミエ展』を開催します。ドーミエ(1808～1879)はフランスの画家、版画家であり、当時の生活を率直で鋭利な観察によってすぐれた風刺画などを多く描きました。本展はドーミエの油彩・水彩・版画・彫刻・綴本計234点を紹介します。10月30日から11月7日までは『手で見る美術展』(貸館)を開催します。ロダンなどの近代ヨーロッパの彫刻作品から日本の近現代の作家の作品、さらには全国の盲学校生徒の優秀作品を展示します。つづく11月13日から12月19日までの『今日のアメリカ写真展』は、マイプルソープなど現代のアメリカを代表する23人の作家によるコンストラクティッド・フォトと総称される作品100点により、アメリカ写真の最も新しい動向を紹介しようとするものです。

年明けの1月5日から2月13日までは『ヴィクトル・ヴァザルリ展』を開催します。ヴァザルリ(1908年～)は、故国ハンガリーで構成主義やバウハウスの芸術理念を学び、後パリで活躍したオプティカル・アートの代表的な画家です。本展は、初期から今日に至るまでの油彩、素描、コラージュなど71点の作品により、彼の造形的探求の軌跡をたどります。本年度最後は2月19日から3月27日までの『日本近代版画の歩み』展です。大正、昭和期を通じ近代版画の開拓者として多彩な版画表現に挑み、また版画普及にも尽力した永瀬義郎の生誕100年を記念し、その画業と、石井柏亭、戸張孤雁、棟方志功などの同時代のすぐれた版画家たちの作品を紹介します。

当館の所蔵品をテーマごとに紹介するコレクション・ギャラリーでは、11月7日まで広尾町出身の現代美術家・橋原武正の造形世界を紹介する『橋原武正展』を開催しています。つづいて、11月13日から翌年の3月27日までは、『道東の版画家たち』展を開催します。池田良二、多賀新、矢柳剛など道東ゆかりの代表的な版画家たちの作品により多彩な版表現の世界を紹介します。



ドーミエ「ドン・キホーテとサンチョパンサ」  
1850-52年

# 美術館ニュース

## 北海道立三岸好太郎美術館

今年の秋の特別展は10月1日(金)から11月21日(日)まで、「線描のシンフォニー三岸好太郎の『オーケストラ』」を開催します。

三岸好太郎は、昭和8年春、晩年の代表的作品のひとつとなる作品『オーケストラ』を制作しました。この頃、三岸は新しい絵画の動向に大きな関心を持ちつつ、自らの造形の方向を探っており、交響楽団の演奏風景にモチーフを得た『オーケストラ』や『新交響楽団』などの連作は、『ひっかき』とよばれる斬新な技法と表現によるもので、彼の前衛的な意識を示しています。それらは一見即興的にも見えながら、描かれた様々な場面を示す素描も多く残っていて、制作にあたって入念な研究と準備を経ていたことをうかがわせます。

現在、このシリーズでは当館所蔵の『オーケストラ』と、宮城県美術館所蔵の『オーケストラ』の、2点の油彩作品が残っています。本展ではこの2点の油彩に加え、制作の過程を伝える興味深いデッサンや資料、また彼の音楽的関心を示す作品なども展示する予定です。三岸のユニークな着想とともに、その造形化にいたるまでの彼の構想の軌跡、イメージの積み重ねの一端を探ります。また、油彩の2点の『オーケストラ』は、当館そして、北海道では、制作以来初めて出会うことになるものです。三岸の繊細で新鮮な感覚にあふれた芸術世界を、この機会にぜひご鑑賞ください。



三岸好太郎「オーケストラ」1933年  
北海道立三岸好太郎美術館蔵

## 財団法人札幌彫刻美術館

### 第6回 本郷新賞

当館では、秋の特別展として『第6回本郷新賞受賞記念渡辺行夫彫刻展』を開催します。

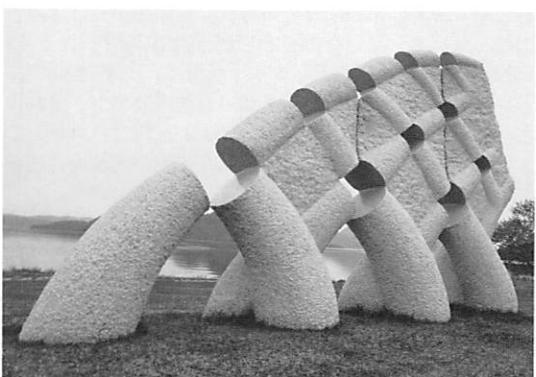
『本郷新賞』は、野外彫刻の第一者として戦後活躍した本郷新的業績を記念し、彫刻芸術の振興に寄与するために1983年に創設しました。

『第6回本郷新賞受賞』は、1991年1月から'92年12月末までの2年間に日本全国の公共空間としての広場、公園、街路、公共建築物等にモニュマンとして制作、設置された彫刻を選考対象として全国の美術関係者123名に推薦を委嘱しました。その結果、26点の作品が推薦されました。

26点の候補作品は、東京の本郷家で行なった選考委員会において厳正な審査を受け、洞爺湖ぐるっと彫刻公園構想の一環として洞爺湖浮見堂公園に設置された、渡辺行夫制作の「風待ち」(白御影石、高さ350cm)に決定しました。受賞作は風を受けてふくらむ帆の曲線をイメージした造形作品であり、国立公園となっている洞爺湖畔の環境の中で調和を保つつ、確かな構成力によって存在する姿は『本郷新賞』にふさわしい作品といえるでしょう。

受賞にあたって、8月26日(木)に贈呈式及び『受賞記念渡辺行夫彫刻展』開会式を行ないます。また記念行事として、当日出席予定の選考委員長である彫刻家堀内正和氏をはじめ、受賞作家等によるシンポジウムも行ないます。

展覧会は、8月27日(金)から10月11日(日)まで、石彫作品を中心に本館及び庭園に約30点の作品を展示します。



# .....美術館ニュース

## 芸術の森美術館と野外美術館

9月4日(土)から10月17日(日)まで芸術の森美術館の所蔵する作品を中心とした「日本近代彫刻の流れ」展を開催します。

古代から江戸時代まで、日本の彫刻といえば奈良の大仏のような仏像にみられる宗教的な意味をもったものがほとんどでした。また、江戸時代には仏像はあまりつくられなくなりましたが、庶民の生活で使われた身近な工芸品や、寺社の欄間の浮き彫りなどに職人的な技術が息づいていました。明治になって塑造、大理石による作品など西洋の彫刻技法が日本に入ってきてからも、アカデミックで写実的な西洋の彫刻が伝わる一方で、伝統的な木彫が再び重んじられる時期が続きます。そのような背景のもと、明治も後半になったころから、ロダンの影響を受けた萩原守衛や高村光太郎らによって、彫刻そのものに人間の生命感や感情が溢れている作風が生まれて来るのであります。本展は、西洋の文化を吸収しつつ、日本人特有の感覚で消化し築いていった守衛や光太郎らをはじめ、彼らにつづいて個性的に展開していった近代

彫刻を紹介するものです。

つづいて10月24日(日)から12月12日(日)まで、アメリカのポップ・アート世代の作家の一人として知られる「トム・ウェッセルマン展」を開催します。

12月18日(土)から3月31日(水)までは、芸術の森美術館の新収蔵品を初公開します。

また、11月3日までは野外美術館が開館しています。自然豊かな丘陵地には現代を代表する彫刻家の作品68点とノルウェーの彫刻家ヴィーゲランの作品5点が点在しています。これらの作品の多くは、作家のがこの地を訪れてその場のイメージも制作に生かしたものになっています。

天高く馬肥ゆる秋。季節のうつろいを感じながら、屋内の近代彫刻とあわせて、野外で現代の彫刻をお楽しみください。

なお、1月～3月(予定)はカンジキを履いて、雪のなかの一昧変わった彫刻群が鑑賞できます。夏冬を通しての芸術の森をどうぞお楽しみください。



萩原守衛《文覚》1908年

### お知らせ

#### 会員証利用を拡げました。

札幌芸術の森もOK

会員のみなさんご協力により、ますます充実した活動の展開ができる事を感謝いたします。

かねてより会員のみなさんの要望ありました会員証による札幌芸術の森観覧につきましては関係機関と協議を重ねてきたところであります、先方の了解もとれ本年度の通常総会でも承認されましたので、6月から観覧できることとなりました。

観覧できるのは、「札幌芸術の森」の芸術の森美術館と野外美術館です。なお、同伴者の観覧については道立美術館と同様1名までです。

#### 会費の納入はお早目に。

資料送付のストップも

ご承知のとおり当会では入会しますと本人からの退会の申し出のない限り会費の納入がなくても2年間は会員としての身分を保有することになっております(会員証の有効期限には係わりありません)が、会費の納入が相当期間経過した場合は、美術展に関する資料等の送付を中断させていただくことがありますので、会費は該当月に納入くださるようお願いいたします。

# 情報コーナー.....

## 「第11回会員のつどい」

### 通常総会に引き続いて行われる

本年度の「会員のつどい」は、5月26日（水）133人の出席を得て通常総会に引き続き北海道立近代美術館の講堂とロビーで開催されました。

講堂では「美術館はいま」と題して近代美術館の奥岡学芸部長の講演が行われ、引き続いて映画「世纪末アール・ヌーボー」が上映されました。

その後ロビーに会場を移動しパーティに入りましたが、たくさんの御馳走をいただきながら和やかな歓談が続くなか催物としてフォークダンスサークル「スマイル」によるフォークダンスが披露されました。

華やかな民族衣装に着飾ったサークルの人たちは会場に大きな輪を描いて見事なダンスを繰り広げ観客から盛んな喝采を浴びましたが、リーダーの誘導で会員のみなさんもその輪に加わり会場は一段と盛り上がりをみせました。

会場では新開発商品の「トート」の特別販売も行われ予想以上の売上をあげることもできました。

8時前には、みなさんがお土産を手にしながら「また来年ね」と名残を惜しみつつ散会になりました。



## W F F M 会議に出席

### 相馬ボランティア部長

ボランティア活動を主体とした当会のようなきちっとした組織的な団体は国内でも数少なく、電話・文書・来訪等による事務局への活動照会は後を断ちません。

先般この照会にお答えしたところ、その団体から当会のボランティア活動がWFFM (World Federation of Friends of Museums) <博物館の友世界同盟>に紹介されました。

早速、WFFMの副会長さんマリー・ナクウイン・シャープさんからの来信がありました。

「あなた方の活動は非常に感動的でした。5月31日から6月6日までイタリアのトレビノで博物館の友世界連盟国際会議が開催されますが、あなた方の協会は会議において最も歓迎される経験の持ち主なので是非出席ください」という要旨でした。

内部で相談の結果、現状ではその段階ではないが理事の中で個人で希望者があればということになり相馬ボランティア部長がオブザーバーとして出席することとなりました。

23ヶ国の参加メンバーに日本からはただひとりの参加でしたが、北海道のボランティア活動はこの参加により世界の多くの人たちに知られることとなりました。



## ボランティア活動の記念誌 ご希望の方はどうぞ

当会では、5年ごとにボランティア活動の記録を冊子にして残しております。

昨年度は創立15周年に当りましたので3回目の5年誌を作成し関係方面にも配布したところです。

各分野でボランティア活動している方々からの照会もありますが、在庫に幾分余裕がありますのでご希望の方がありましたら実費でお送りいたします。

実費は申込時にボランティア活動記念誌申込と明記のうえ送金願います。

郵送の場合 実 費 500円

来訪の場合 " 300円

申込先 060 札幌市中央区北1条西17丁目

北海道立近代美術館内 社団法人北海道美術館協力会事務局

美術研修旅行記

## 近江路美術館めぐり

樟 本 須磨子



6月8日  
千歳空港より  
3泊4日の美術館めぐりの  
旅に出発する。  
約1時間半の  
飛行で小牧空港着。名古屋  
の都心に入る  
と立派なビル

の林立する大都会です。愛知県立美術館は、昨年秋完成したばかりの「愛知芸術センター」の10階にあります。特別展には「小川芋鉢展」で芋鉢の代表作品90点を集めています。芋鉢は明治時代、ユニークな画風で桃源境など多様なモチーフに、河童や精霊などを配し自然と人間の結びつきを追及した画家です。常設展には横山大観、片岡球子、ピカソ、クリムトと多彩な名画揃いでました。

次は「ヒマラヤ美術館」1階は洋菓子と喫茶店。店主津田弘氏の個人コレクションで、2、3階が美術館です。名古屋出身の画家杉本健吉、三岸節子の作品が多く他に梅原龍三郎、林武、三岸好太郎の「少年」など印象深い作品でした。三岸好太郎の作品には妻節子の自筆の解説がつけられています。

6月9日。皇太子の御成婚の日なのに雨。「三重県立美術館」は津市のか高い処にあり、今が盛りのサツキが建物の周囲や通路を埋めつくして素晴らしい景観でした。この美術館には「けやきの会」というボランティアの会があり、現在会員は89名、5名の女性会員が歓迎して下さって、常設の画絵の解説などいろいろお世話になりました。特別展は、地元伊勢長島藩守「増山雪斎」の日本画展を催していました。常設の方は先づ、シャガールの「枝」のブルーが目に飛びこんで来ました。岡田財団の寄贈のこと、すごい。その他、ルノワール、ルドン、竹内栖鳳、安井曾太郎と数多く展示してあります。

午後は雨が止んで太陽がまぶしい。バスは鈴鹿峠など山岳地帯をぬけて、琵琶湖畔へ。有名な「石山寺」を参詣してから、「大津絵美術館」を見る。大津絵とは、江戸中期に庶民的な素朴さとユーモアが加わって、風刺画

として東海道を往来する旅人の土産物として喜ばれたもので「鬼の念仏」「藤娘」などが人気です。

6月10日「滋賀県立美術館」は大津市の小高い処に多くの木々に囲まれた平屋建、大きな池を配した庭園も美事です。特設展は「伝統のわざ」日本伝統工芸近畿展で、染色、陶芸、金工、人形、漆芸、木竹工その他いざれも目を見張るものばかりで、日本の伝統工芸の質の高さ、奥の深さに足が釘づけになってしまいました。常設展では、地元大津出身の「小倉遊亀コーナー」があり90才をすぎても今だ元気で書き続けているとのこと。その他「安田鞆彦、速水御舟」など秀作が多い。

「彦根城博物館」は第1の特色である「能舞台」初めて見る本格的な能舞台で、此處で演能に会えたら最高なのにと思いました。他に、井伊家に伝來の武具、能衣粧、茶道具、古文書など多く展示してありました。

6月11日「岐阜県立美術館」広大な敷地に志野調タイルを使用した風格のある建物。川合玉堂など郷土とかかわりのある作品を収蔵している他、19世紀フランス印象派を中心とし特に、ルドンの作品を集中的に集めているそうで、世界的にも有数のルドン所蔵館です。油彩の「アポロンの馬車」は2億円で購入したと聞きました。

最後は「メナード美術館」メナード化粧品会社々長、野々川大介氏の個人コレクションで、現代画絵を主体に日本画、洋画、版画、彫刻など小じんまりだが、梅原龍三郎の「浅間山」の赤の色彩など感銘深く見ました。

豊かな経済界をバックにどの美術館にも常設に超名画が数多く展示してあるのに驚き又羨やましく思いました。美しいものを沢山見て心洗はれるいい旅でした。



## ESSAY

二十年ぶりで利尻・礼文を旅して  
きた。十年一昔とはいうものの、やはりその間の変化には驚いた。



石田 義彦

野草とともに  
駒野ひかり



駒野ひかり

梅雨空を心配していたら、気持ちのいい晴天で、お城を借景したホテルに着きました。主人にお伴しての名古屋の午後でした。

父の日に子供達が主人に「いつものありがとう」とプレゼントを贈るとき、四十数年前に若くして亡くなつた、父を追想します。

戦時中、戦後と物資の乏しいとき、藁半紙に鉛筆で馬を描いてくれたこ

降りてくるツアーキャ客をのみこんで  
発車する幾台もの観光バス。とにかく  
く活気に満ちている。  
また、随所に残るロマン溢れる伝

説や民話を伝える為の便法も講じてある。

これらのロマンに想いを寄せながら、桃岩に立って沈みゆく夕陽をな

がめるひと時は、静けさの中に人の  
奥まで洗われるような安らぎを感じ

るのは何故だろうか。ふれあう島民の素朴な善意も下地になつてゐる

のかも知れない。

趣味として、母子草、ひるがね、じさいのドライフラワー作り等、年中楽しんでいます。

だて、おかとらのお、きんばうげ  
つめ草、ひめじよおん、こばん草  
どくだみ、母子草等すごいでしょ  
草取りする時も必ず残して、風  
ゆれる可憐な花々を眺めておりまち

それに今はハーブも植えて、ペペ

ム、オレガノ等、皆紫系の小さな  
をつけます。

趣味として、母子草、ひるがお  
つるのリース作りや、こばん草、

じさいのドライフラワー作り等、  
年中楽しんでいます。

帰りに市美術館までタクシーを走らせ大急ぎで、絵を鑑賞しました。モディリエーの「おさげ髪の少女」が魅惑的でした。

接している気配がただよいです。特別陳列の「尾張名古屋城下のにぎわい」を観ました。さんざめく尾長成下の庶民の息次ぎが、聞こえて

で躍動する馬が「き」、「ぎ」と生まれました。

いろいろと絵を見るとき一本一本の線を美しさ、力強さ、迷いのなさが父と重なり、デッサンに心ひかれるのはそのためでしょうか。

もいただけなかつた私は子供達にも孫にも描いてあげれない悲しさがあります。でも観る楽しさ、感動する心は一杯あり、これからも主人と、美術館通いをしたいと思います。

大名道旱



林 比奈子

A black and white portrait photograph of Dr. Linda K. Tsui, a woman with dark hair and glasses, wearing a patterned blouse.

諸岡 泉子

売店がはじめてお贈りする



会員の皆さんのお愛顧に応えて、美術館売店がはじめての謝恩セールを行うことになりました。

特設売店には、美術展観覧と同様会員のほか同伴者1名までお入りになりますので、どうぞお誘い合わせのうえ、ご来店ください。

特別美術展は日本画の「東山魁夷—青の世界」を開催中です。

謝恩セール期間

平成5年9月30(木)／10月1日(金)／2日(土) 3日間(各10時から16時まで)

特設売店

北海道立近代美術館造形室(2階売店の奥)

特設売店展示商品は盛り沢山用意しておりますが、**20%～30% OFF**  
を主としていずれもお買得のものばかりです。

このチャンスをお見逃しなく

阿部貞夫の1994年版画カレンダー・岩橋英遠の道産子追憶之巻テレホンカード・一筆箋など魅力ある新商品も展示販売されます。

ご来店のみなさんにはもれなく記念品を用意しております。



●テレホンサービス

「うちの事務所にも、開催展覧会がくるようだね」

「結構な数になると思うよ」

「みんなは、テレホンサービスを知っているのだろうか」

「あれは、的確で親切な情報を流してくれるよ」

「話中が多いのかもしれませんね」

「世の中便利になっているのに、そのシステムを知らない場合が多いのかもしれないなあ」

●勘違いの西暦

「最近、新しく発行する会員証の有効期限のことで苦情電話も多いんでないかい」

「西暦1994年と記入してあるのに平成4年と勘違いして、これは5年の誤りでないかという苦情ね」

「西暦を採用したのは間違いかなあ」

「たまたま、西暦の末尾数字と平成年次が1年違いということが勘違いする原因ではないかな」

「しかし、平成元号が続く限りこの勘違いが続くとすれ

ば、一考を要することもしないね」

●男性は照れ屋

「今年の会員の集いの催し物にフォークダンスをやったが、男性の参加はひとりかふたりだったね」

「ボランティアのみなさんには、ひとりがひとり男性をお誘いするよう頼んでおいたんだぞなあ」

「本来、男性は照れ屋なんじゃないかな。だから誘われても乗ってこなかったというところじゃないの」

「来年の催し物の検討課題ではあるね」

●世界の仲間入り

「相馬ボランティア部長がW F M会議に出席されたが、協力会もついに世界の仲間入りをしたと言えるのかな」

「仲間入りまでとはいかなくても、日本からただひとり出席して、参加国に北海道の美術館協力会が知られたことは意義深いことだよね」

「日本の博物館等に対するボランティア活動意識は低調だという世界の認識に一石投じたことは評価されてもいいのではないか」

# 北国の詩情——阿部貞夫の木版画

Calendar  
1994

北海道の版画家 阿部貞夫の作品が贈る

## 季節が織りなす清冽なポエジー

9月発売開始



1	2
3 4 5 6 7 8	1 2 3 4 5
9 10 11 12 13 14 15	6 7 8 9 10 11 12
16 17 18 19 20 21 22	13 14 15 16 17 18 19
23 24 25 26 27 28 29	20 21 22 23 24 25 26
30 31	27 28



◆B3版／壁かけタイプ 8枚つづり・解説つき

◆定価 1,030円（税込み） ◆9月発売

◆100部以上購入の場合は1部824円（税込み）

◆限定販売

北海道立美術館の売店でお求めください。

100部以上購入の場合は、名入れなど含めて直接下記にお申込みください。

（名入れの場合はカレンダー代金のほか5,000を申し受けます。）

札幌市中央区北1条西17丁目 北海道立近代美術館内

社団法人 北海道美術館協力会 電話644-4025